課題発表(稲田)

kickstarterのデータを用いて、プロジェクトが成功するかどうかの判定を行った。

以下の順で説明する。

- 1. ロジスティック回帰
- 2. 木モデル (ランダムフォレスト)
- 3. ニューラルネットワーク
- 4. 結論
- 5. ニューラルネットワーク参考

1. ロジスティック回帰

ロジスティック回帰で計算した結果は以下のようになった

- グリッドサーチでパラメータを探索
- 特徴量選択はなし。
- ホールドアウト (グリッドサーチで交差検証)

ホールドアウト検証結果

- 対数尤度 = -11.229
- 正答率 (Accuracy) = 67.488%
- 適合率 (Precision) = 61.537%
- 再現率(Recall) = 50.517%
- F1値 (F1-score) = 55.485%
- {'fit_intercept': False, 'max_iter': 1000, 'penalty': 'elasticnet'} 0.6752053968493253

2. 木モデル(ランダムフォレスト)

- グリッドサーチでパラメータを探索
- 特徴量選択はなし。
- ホールドアウト (グリッドサーチで交差検証)

ホールドアウト検証結果

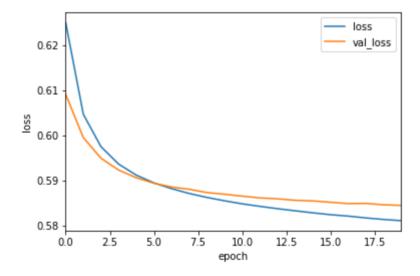
- 対数尤度 = -11.007
- 正答率 (Accuracy) = 68.133%
- 適合率 (Precision) = 62.855%
- 再現率 (Recall) = 50.242%
- F1値 (F1-score) = 55.845%
- {'criterion': 'entropy', 'max_depth': 20, 'min_samples_leaf': 8, 'min_samples_split': 2, 'n_estimators': 20} 0.6795432275570965

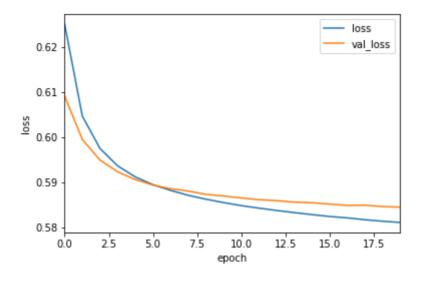
3. ニューラルネットワーク

以下のモデルで学習した。

- epoc数 20
- バッチ分割数 20
- 計算時間がかかるため、グリッドサーチは行っていない。

In []:





ホールドアウトの結果

上記モデルをホールドアウト法で検証した結果は以下の通り。

ホールドアウト検証結果

- 対数尤度 = -10.944
- 正答率(Accuracy) = 68.314%
- 適合率 (Precision) = 62.847%
- 再現率(Recall) = 51.370%
- F1値(F1-score) = 56.532%

4. 結論

各学習方法で試したが、飛び抜けて優秀な正答率がでたものはなく、どれも良いものでも67-68%程度の正答率だった。

(モデルの選択によっては、訓練データで80%超えすることもあったが、汎化性のは比例せず、過学習となっていた。)

ただし、学習方法により計算時間の速度の差がかなりあり、持ち時間内に終わらせるための考慮も必要かと 思われる。

今後の課題としては以下のことが考えられる。

- 新しい説明変数の発見
 - 特に名前関係
- 説明変数の取捨選択
 - 明確にどうするかはわからないが
- グリッドサーチの範囲を拡大
 - 時間や計算パワーがある場合は、ニューラルネットワークでもモデルなどを多数試す。

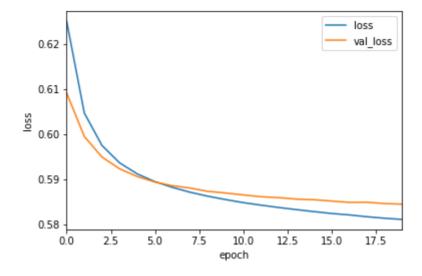
5. ニューラルネットワーク参考

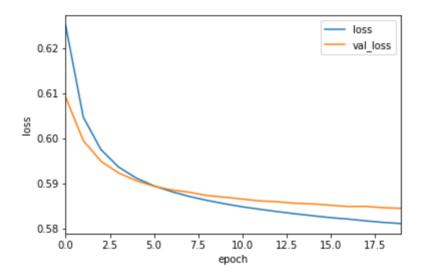
パラメータとしてモデルがいくらでも考えられるので、いくつか試した。 その中で、いくつか参考に挙げておく。

5.1. モデル1

中間層を増やした。

In []:



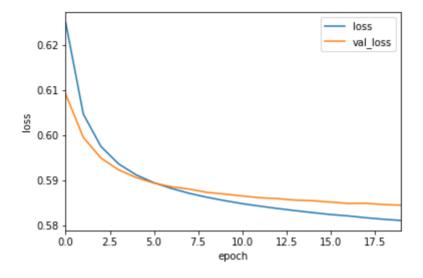


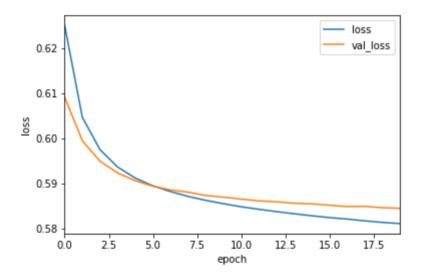
(結果) 訓練誤差と汎化誤差の差が開いた。

5.2. モデル2

中間層の各ニューロン数を同じにした。

In []:



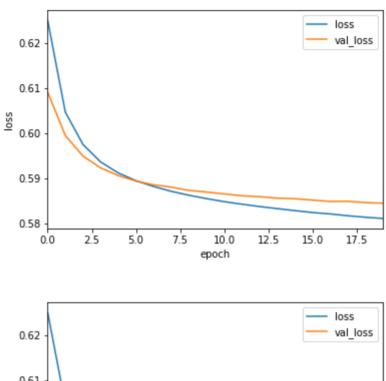


(結果) 訓練誤差と汎化誤差の差が開いた。

5.3. モデル3

最適化アルゴリズムを変えた。

In []:



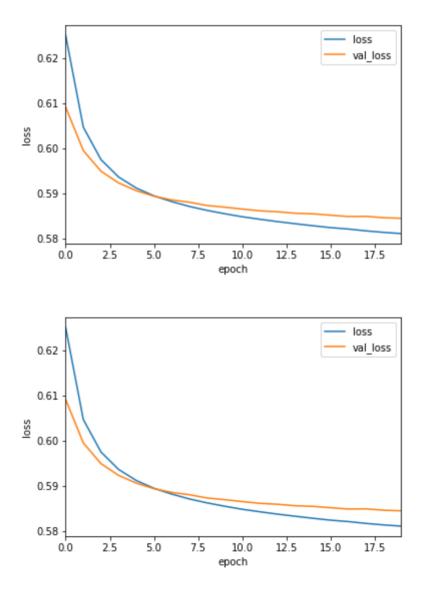
0.62 - loss - val_loss - val_loss

(結果) 明らかに過学習を起こしている。

5.4. モデル4

活性化関数をtanhに変えてみた。

In []:



(結果) 訓練誤差と汎化誤差は離れていない。 ただ、ReLUに比べて、汎化性能が少し劣っている。